ADVERTISING FEATURE

広告企画

オルガテック東京 2023
展示会プロダクトレポート

2023年4月26日～28日に東京ビッグサイトで開催された「オルガテック東京 2023」、
働き方が急速に変化しつつあり、働く場に求められる要素も増えてきています。
来場者は意識高く、さまざまな製品を探し求め、会場は大いに賑わいました。
出展した6社を取材、各社のブースや展示内容、新製品を紹介します。
また、ウェブサイト『id+』でも記事をご覧いただけます。

INDEX

イトーキ …… 228ページ〔資料請求番号 751〕
イナバインターナショナル…… 229ページ〔資料請求番号 752〕
内田洋行 …… 230ページ〔資料請求番号 753〕
サンゲツ …… 231ページ〔資料請求番号 754〕
ピクシーダストテクノロジーズ …… 232ページ〔資料請求番号 755〕
ライオン事務器 …… 233ページ〔資料請求番号 756〕

※ウェブメディア『id+』でも記事をご覧いただけます。
https://www.shotenkenchiku-plus.com/

イトーキ

やぐらでつくるオフィスの新しいコミュニケーションシーン「solmio」

会場内でもひときわ大きなスペースで出展していたイトーキ。そのエリアの中心にあったのが「solmio（ソルミオ）」だ。大がかりなコンセプト展示と見紛ったほどだが、2023年冬の発売を予定している同社の新製品だ。

ポストコロナで改めてオフィスの意義を高めるため、コミュニケーションの活性化がうたわれている。「solmio」は人が集まりやすい場として、入りやすさや居心地の良さを重視し、オフィスのシンボルとなるような存在を目指したという。

基本はモジュールによるフレームシステムで、床や天井に固定せず、オフィス内に設置する家具として成立させている。フレームに木材を用いた点が特徴で、構造検討には木造建築の設計や研究などを進めるNPO法人team Timberize（チーム・ティンバライズ）の協力を受けた。アルミやスチールではなく、木（針葉樹）を使うことで心地良い、人の居場所であることを示す。また、ひさしが象徴的で、これによりデザインとしての存在感が増すと同時に、内と外の領域も曖昧にする。

床から梁上端までの高さは2250㎜で、6×4.8m、6×3.6m、4.8×3.6mの3サイズ（柱芯々）が標準モデルだ。1.2mグリッド単位での拡張も対応する。システムとして解体・再組み立ても可能。オプションに、引き戸やガラス、全面パネル、ルーバーのパネル、ルーバーのひさしなどを予定している。木のイメージを残した、塗装のバリエーションも用意した。ユーザー次第で多様な使い方ができるはずだ。

既存のパーティションシステムとは異なり、木のやぐら（架構）を置くという発想は斬新だ。佇まいは水平基調のモダニズム建築のようでもあり、オフィスにおける“あずまや”とも言える。人はこうした曖昧な仕切りでも「場」として認知するし、いわゆるオフィス然とした空間にも異なる雰囲気をつくり出すことができそうだ。

2023年春リニューアルが完了した、同社の本社オフィス「ITOKI TOKYO XORK」（東京・日本橋）でも「solmio」は展示されており、オフィスの見学申込（https://www.itoki.jp/xork/）で実物を見ることができる。

1／「solmio」はオフィス内に適度に開かれた新しい拠点をつくる。周囲にも仕事ができる場をつくっており、自然なコミュニケーションが生まれそうだ
2／リビングのような籠り感があるものの、閉ざされたようには感じない
3／ひさしに取り付けたルーバーが、温かみのある居心地の良さをもたらす

COMPANY DATA

イトーキ　https://www.itoki.jp/　TEL.0120-164177　〔資料請求番号751〕

イナバインターナショナル

ポストコロナ時代のオフィスサウンドソリューション

1／一人用サイレントブース「30 minutes」（右）と「15 minutes」（左）。消防法特例でブース内部を目視できることが求められるため、ガラス面をデザインのポイントとしている
2／3人でのWeb会議や、2人での1on1ミーティングに対応する「monju（モンジュ）」。写真はスチール壁面部分にグラフィックシートでオリジナルの柄を施したオプション仕様
3／ヤマハの埋込型平面スピーカーシステム「YFS」をパーティション内に埋め込んだ「YURT」。外部への音漏れを防止する

イナバインターナショナルは、親会社である稲葉製作所のオフィス関連製品販売、およびオフィスの設計施工・ソリューション提案などを手掛けている。スチール製物置の多大な実績を元に、カーデザイナーとして著名な奥山清行氏率いるKEN OKUYMA DESIGNのデザインを採用したオフィスファニチャーを展開する。

今回の展示ではサウンドソリューションをうたい、音対策まわりの製品紹介がメインとなった。

Web会議などに使われる、サイレントブース「Biz Break（ビズブレイク）」シリーズは、物置製造のノウハウを生かしつつ、KEN OKUYMA DESIGNのデザイン監修で洗練させた。サイレントの名の通り、優れた音環境の提供がウリだ。

一人用の「ロッククリスタイルタイプ」「ペンタゴンタイプ」に、昨年発売の3人用「monju（モンジュ）」――6角形平面が特徴で、Web会議でニーズが高いとされる3人での使用の際に、モニターが見やすく、且つワーカー同士の距離を適切に保てるデザイン――が加わり、さらに2023年7月発売予定の新製品「30 minutes（30ミニッツ）」と「15 minutes（15ミニッツ）」が登場。タイムパフォーマンス向上のために、ミーティングの頻度を高めて、短くフェーズ合わせをする、昨今のビジネスシーンには最適な小型の製品で、限られたオフィススペース内でより生産性を高めるためのアイテムとして位置付けられる。「30 minutes」はw1048×d936×h2257㎜、「15 minutes」はw874×d880×h2192㎜というサイズ。「15 minutes」は、前面部の扉を開閉し、乗り込むように昇降式スタンドスツールに腰を掛け、前を向いたままブースから出られるアクティブな働き方をサポートする。

また、同社のパーティション「YURT（ユルト）」とヤマハの埋込型平面スピーカーシステム「YFS」を組み合わせたコラボレーション提案も展示された。内側は指向性の強いスピーカーで小さな通信音声でもきちんと聞こえるようにしつつ、外側では不快とならないマスキング音を発生させることで、スピーチプライバシーを守る機能を持たせたものだ。

COMPANY DATA

イナバインターナショナル　https://www.inaba-inter.co.jp/　TEL. 03-3461-1781　〔資料請求番号752〕

内田洋行

ICTと環境構築で支えるイノベーションを引き起こすチームのための拠点

1

オフィスワーカーが業務内容に応じて能動的に場所と時間を変える多様なワークスタイル。働き方の選択肢が増える一方で、社員同士の対面の繋がりが希薄になり、社員間でのノウハウの伝達やマネジメント上の困難さなど、多くの課題が顕在化しており、チームの一体感を高める環境づくりが求められる。内田洋行では「アクティブ・コモンズ」として2012年からいち早く自社で実践・検証し、新しい働き方に対応したオフィスを提案する。

今回の展示は、ともに働くチームのつながりを高め、その拠点となる「Team Base」と称した空間提案で、可動家具をメインにしたフレキシブルでオープンなものだ。加えて同社ならではの大きな特徴に、軸となるICTの存在がある。創業から113年と歴史のある内田洋行だが、コンピューターとの関わりも深く長い。1962年にオフィスコンピューターを発表、ITは現在まで脈々と受け継がれて同社事業の屋台骨でもある。社内には1300人以上のSEがいるという。

出社して誰とどんな仕事をするのかによって場所を決め、会議室やスケジュールを予約。Web会議やウェビナーで資料や画面の共有をし、映像・音声を操作。ワーカーの状況やエリアごとの稼働率、エネルギー消費等を把握　現実のシチュエーションを想定した展示では、タブレット等を用いて、「SmartOfficeNavigator（スマートオフィスナビゲーター）」や「codemari webinar（コデマリウェビナー）」といった製品の、実際のUI（ユーザーインターフェース）や機能を体験できた。

同社では、社員の居場所、オフィスの混雑状況や利用状況の把握から照明や空調、音響などの設備をメーカーの垣根を越えて統合管理し、それぞれの機器が「きちんとつながる」環境を整える。それによりワーカーが快適に働く環境や活動を円滑に行う場を構築し、多様なワークスタイルを支援している。これらのICT環境を自社で構築できるため、セキュリティー性の高い、オフィスユーザー目線の使い勝手を空間構築と合わせたトータルコーディネートで実現することができるのが内田洋行の強みだ。

ICTは既にオフィスのインフラであり、そのシステムと合わせて内装や家具・造作、照明等を設計することになる。人にとって空間のインターフェースはインテリアデザインだけではなく、ICTのユーザビリティーも一体に洗練が求められる時代だ。その方向性で内田洋行は大きく先んじていると言えそうだ。

2

3

1 ／ICTを駆使した情報共有とフレキシブルなレイアウトが可能な什器により、コミュニケーションとチーム業務の効率化を可能にする「Team Base」
2 ／オンライン会議の事前準備を簡略化できる制御システム「codemari webinar（コデマリウェビナー）」を導入した「新ハイブリッド会議室」。全てのメンバーが画角に収まるため、自然な会話が可能
3 ／社員の居場所やスケジュールの確認ができ、対面やチャットでのコミュニケーションを迅速に可能とする「SmartOfficeNavigator（スマートオフィスナビゲーター）」

COMPANY DATA

内田洋行　https://office.uchida.co.jp　TEL.0120-077-266　〔資料請求番号753〕

サンゲツ

ボーダレスになったオフィスデザインを多彩にサポートする

1

トータルインテリアを強みとするサンゲツ。オルガテックでの展示は「ボーダレス」がコンセプトだ。空間デザインでは既に住宅/非住宅、インテリア/エクステリアという境界が曖昧になり、既成概念にとらわれず、多彩なありようを見せている。同社のブースも、さまざまなカテゴリーの商材を多面的かつ有機的に見せる“多様性の森”というイメージ。実際に同社の多彩なマテリアルが抽象化した木々や葉として使われていた。

“森”の幹の一つが「ECO」。社会・企業にとってカーボンニュートラルを始め、環境負荷低減は必須の課題でエコ性能を第一条件とするクライアントも出てきた。ここでは100%リサイクル糸「エコニール」を使ったカーペットタイル「NT700・NTdouble eco」や、籾殻や端材等を再利用した壁紙「MEGURe WALL（メグリウォール）」を展示。エコ建材ながら通常製品と変わらないコストが特徴。同社ではCO_2削減量証明書も発行する。

デジタルプリントで自由なデザインにカスタマイズできる「ハイグラフィカ」シリーズも展示。オフィスでは、透明性と隠蔽性の両方の機能を持つフロストクリアインクを使用したガラスフィルム「Fog」も好評で、そのカスタマイズも可能。ガラスフィルムに留まらず壁紙や粘着剤付化粧フィルム「リアテック」まで、さまざまなマテリアルでデザインを統一し横展開できるのは同社ならではだ。自社製品だけでなく、壁紙と「リアテック」とイビケンのメラミン化粧板「イビボード」の共通柄展開もあり、デザイナー目線では有用だ。

サンゲツグループのエクステリア商社・サングリーンによる展示も登場。室内外をクロスオーバーするインナーポーチなどグリーンを使った中間領域のデザイン提案が見られた。

また、2022年秋リリースの不燃認定壁紙見本帳「FAITH」では、自然景観をインスパイアした色味の「Naturescape」、リアリティーが向上した木目柄「PROGRESS WOOD」をアピール。さらに柄種の増えた大判セラミックスラブ「ガルザス」は、オフィスエントランスなど付加価値の高い場所でその質感と性能を発揮できるだろう。

「オフィスだから」という理由でデザインを狭めることなく、多様なアプローチに応えるラインアップをそろえたサンゲツの豊かな“森”。紹介した新製品はリニューアルした東京・品川のショールームでも詳しく見られる。

2

3

1／ブースデザインは同社のインハウスデザインであるスペースクリエーション事業部によるものだ
2／異素材同柄コーディネートの展示、柱や什器の面が異なる素材で施工されており、精度の高い同柄の連続性がよくわかる
3／壁紙「ハイグラフィカ セレクトオーダー」の新緑を表現した新柄と、自然素材壁紙を用いた葉の表現が“多様性の森”を体現している

COMPANY DATA

サンゲツ　https://www.sangetsu.co.jp/　TEL.052-564-3314　〔資料請求番号754〕

ピクシーダストテクノロジーズ

メタマテリアル技術でオフィスの音を制御する

1

研究者でありメディアアーティストとしても活躍する落合陽一氏が代表のスタートアップ、ピクシーダストテクノロジーズ。独自開発した要素技術によって、社会や空間でのさまざまなソリューションを連続的に展開する。

今回の展示では、メタマテリアル技術を用いた吸音材「iwasemi（イワセミ）」シリーズが勢揃いした。自由な形状とマテリアルをアピールする「iwasemi HX-α」（イトーキとの共同開発品）、より空間に馴染みやすく、意匠性を高めた「iwasemi SQ-α」、そして2023年5月に発売になったばかりの「iwasemi RC-α」だ。素材と加工の自由度が高い、全く新しい吸音材として、会場でも絶えず人だかりができていた。

「iwasemi RC-α」はガラスパーティションへ貼ることに特化したコンセプトを持つ。100×300×t20㎜というタイルのようなシンプルな形状で、わかりやすく多彩な貼り方を受容しつつ、光のゆらぎを生む表面加工がプライバシー対策と意匠を兼ねる。特注色のバイオプラスチックや中空構造、ガラス面への接着方法とそのディテールなど、プロダクトとしてのあり方にもこだわり、ガラスと見紛うような佇まいを実現した。

加えて、注目されていたのがコンセプトモデルとして展示されたワークブース。ブースのガラスの壁面に「iwasemi RC-α」を、上部に「iwasemi」シリーズでの技術を発展応用した、新発表の音響メタマテリアル遮音材を使っている。遮音材は透明素材でできた変形ルーバーという見た目だ。通過する音波の一部を逆位相にし、ノイズキャンセルのように打ち消すことができる。「iwasemi」は特定の周波帯に対して吸音を最適化できる特長を持ち、この遮音材でも同様に1400～2800Hzの音（人の声のうち、明瞭度への寄与が大きい）に最適化されている。そして隙間はあるので、空気や光は通過するというものだ。

こうしたワークブースでは通常は遮音のためにスチールで覆われ、天井を付けると換気設備やスプリンクラーが必要な場合もある。それに対する一つのソリューションとしてコンセプト化したものだ。遮音材自体もそのためのプロトタイプで、形状等は用途に合わせて自由に変えられる。今後は企業などと協業して、さまざまな製品として、まさに連続的に実装していく予定だ。

2

3

1／メイン展示となった「iwasemi RC-α」。ガラスの透明感を損なうことなく、ゆらぎ加工でプライバシーを保持。また自由に貼り合わせられるのも魅力
2／「iwasemi RC-α」のディテール。厚みは20㎜
3／提案展示のワークブース。壁面に「iwasemi RC-α」を、天井には新しい音響メタマテリアル遮音材を施工。天井部がオープンでありながらも快適な音環境をかなえる

COMPANY DATA

ピクシーダストテクノロジーズ　https://pixiedusttech.com/product/iwasemi/　Mail◎support_iwasemi@pixidusttech.com　〔資料請求番号755〕

ライオン事務器

機能とシーンでつくり出す心地よいオフィス

1

数ある出展者の中でも、おそらく最も長い歴史を持つライオン事務器。創業は寛政4年（1792年）と230年をさかのぼり、事務用品・オフィス家具の老舗だ。今年の展示では「My Favorite Office」をテーマとして、ワーカー目線で働く場のあり方を提案。ポストコロナで行きたくなるオフィス、お気に入りとなる空間づくりをサポートする新製品を中心に紹介したい。

「Skog（スコーグ）」はローポジションのラウンジチェア、テーブルとわずかに傾斜した自立パネルの組み合わせで、リラックスしたカジュアルな雰囲気のあるアイテムだ。色遣いもアースカラーでアウトドアギアのような趣がある。チェアはゆるやかにロッキングし、心地よく腰掛けることができ、パネルは背後の視線をしっかり遮ってくれる。ロースタイルによって視界が変わり、ソロワークでもミーティングでも気分を切り替えた時間の過ごし方ができそうだ。

オフィスにある資料を広げたり、思考を整理するためのライブラリー空間として、ユニットシェルフ「vrede（ブレーデ）」を中心とした提案も目を惹いていた。w900×d450×h450（最下段のみ510）㎜のシェルフを組み合わせることができるものだ。空間に合わせてラウンドさせたり、階段状に積んだり、パーティション的にも利用できる。

2022年1月に発売されたソロワーキングブース「DelicaBooth（デリカブース）」には、除菌LED搭載モデルを参考展示。可視光線ながら除菌効果があるLEDを使用。照明として機能しつつ、照射部分の除菌効果が期待できるというものだ。多数の人が利用するブースではニーズがあるだろう。

ブース中央には、ダクトレールの付いたアッパーフレームが特徴的なカフェカウンター「Pretta（プレッタ）」を展示。ワーカー同士のちょっとしたコミュニケーションや休憩などマグネットスペースのシーンを想定する。

総じてオフィスに行きたくなるというモチベーションを高めるために、よりコンセプトを明確にしたラインアップだ。時代に合った多様なワークスタイルにつながる家具や機器の提案には、長く時代の変化にも柔軟に対応してきた企業としての姿勢が感じられる。

2

3

1／働く場にコミュニケーションとリラックス感を生む「スコーグ」。抜け感のあるカジュアルなデザインで来場者の目を惹いた
2／除菌LEDを搭載した、ソロワーキングブース「デリカブース」の最新モデル。アフターコロナのオフィス空間には欠かせない
3／空間に合わせて自由な組み合わせができるユニットシェルフ「ブレーデ」。木製テーブルやチェアと組み合わせることで、オフィスにライブラリー空間を創出する

COMPANY DATA

ライオン事務器　https://www.lion-jimuki.co.jp/　TEL.0120-074416

〔資料請求番号756〕